
新婚203号室

岡崎 朱羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新婚203号室

【Zコード】

Z5409F

【作者名】

岡崎 朱羽

【あらすじ】

僕は透さんが好き。でも、男の子同士の恋は実らない。そんなある日、神様が僕を女の子にしてくれた。これで、二人は恋人になれる。瀬能夏紀がおくるラブ・ラブえっちコメディー。

今日から夫婦

突然ですが、僕は『女の子』になってしまいました。

「透さん。おはようございます。朝ですよ。」

「ん~。ああ、おはよう。空」僕の名前は広井 空。身長145cm体重35kgをして声は高く童顔。どうみても女の子にしかみえない容姿である。ここは『私立無咲偉学園』の学生寮の一室。203号室での出来事。僕は同室者の紺野 透さんゆ起こす。『わん』つて付いてるから先輩に思えるけど同級生です。付けたくなるような人です。

「透さん。朝」はん出来るよ。」

「そうか。今日も一段とかわいいな」

「透さん。僕は男の子ですよ~」

「そうだった。そうだった。いけね~空があまりにも可愛かったから、つい」

「恥ずかしいよお。」僕はちょっと膨れた。

「でも、今日は本当に違うな。」

「実は、朝起きたら女の子の体になつてました。だからね…」

「好きだ。そら」

「透さん。僕、ううん。私も「一人は唇を重ねた。」

「あ、遅刻だ~!~」僕たちは急いで部屋を出た。

学校にて。私は広井 空です。

急いで家を出たのだが間に合わなかつた…。僕たちは違うしてしまつた。

「おはよっ。あなたたち遅刻よ」

「す、すみません。寝坊しました。」

「もう、ちゃんと氣をつけてね」

「はい」我がクラスの担任『山中 林檎』先生。若くて綺麗な先生だ。

「そりちゃん。かわいいんだから、女子の制服着ない?』クラスの女子達も皆毎日言つんだ。勘弁してほしいんだけど…。

「あら?今日はなんかいつもと違つわね。ちょっとこりつしゃい

僕は違う部屋連れていかれた。

ああ、空が連行されたんで、俺こと紺野 透に視点を変えるぞ。連行された部屋きら

「あ〜!!」だの

「さや〜!!」だの聞こえて来るのはなんでだ…。まあいい。

「紺野君」

「ん?」隣の席の女子に話かけられた。なんつたつけ?えーと、名前忘れたからいいや。

「なんだ?」

「なんか、広井くんかわいいね。女の子になつちやつたのかもね〜

「ああ、そうかもな」実際そつなんだよなあ。お、戻ってきた。なんか泣いてる。

「皆お待たせ 私の隣で泣いてる娘はそりちゃんです。朝起きたら女の子になつてたんだって。」

「センセー！広井は紺野の同室者です。」

「あら。紺野くうん そらちやんを襲つたら殺しますよ～」

「しねえよー！」そりやかわいいからそつ脱つけど、ダメだ。「私

を襲わないで下さい……」「ぐはあー！ 襲つてくれと言つてるみたいじ

やねえかあー！ ダメだ俺。もう死ぬ。これ以上のことはねえって。

「キヤアアアー！ 男子達が鼻血出てるー！」えー？ 意識が遠退いて

行く…。

出血多量で俺達男子は倒れたらしい。教室は血の海になたんだと。
それは、後から聞いた話なんだけどな。

休日の一人

金曜日を過ぎ、待ちに待つた休日一日田の土曜日がやってきた。

「透さん。起きてください。朝ですよ。今日は透さんの大好物のワカメのみそ汁ですよ」

「おはよっ。そら

「はい。おはよう

「今日はお前の服などを買いに行くぞ。一着服を買ってやる。後は自分で買うんだぞ」

「ありがとうございます。透さん好きよ」

「そら」

「透さん」

「そら」

「透さん」そこ!...某アニメの真似しない!...こりゃ失礼。私は作者の瀬能 夏紀です。以後よろしく。

デパートに着いた二人。先ずは、下着から。

「透さん。こんなのどうかしら?」

「あ、ああ」俺は今ひじょーにマズイ。鼻血でそう…。だって、そらがかわいいから。てか、下着姿だよ? カップだとよ。まあまあだが、なんせそらだから。ナイスです

透さん、気に入ってくれるかな? これは、勝負下着にするわ。それから何着か買い、いよいよ服だわ。

「これなんかどうだ?」

「そうね…。あ、これにする。買ってくれるんですか?」

「任せろ」いくつか服を買った。

そろそろお腹が空いたので、ファミレスに入った。ちなみに、今私が着ているのは、ブラウスにチェックのスカート 髮型はツイテールです。透さんも喜んでくれてるみたい。よかつた

それから映画を見たり、アクセサリーを見たり。私達は完璧なカップルです。一緒にすん哪儿から、夫婦みたいんですけど 私は透さんさえいてくれたら幸せだわ。将来私は透さんと結婚して、透さんの子供を生みたい。好きよ 透さん。

親訪問ー?広井夫妻登場ー!

「えー? 今から? 来るの? あ、ちよっと! 切れちゃった…。」「どうした?」

「今からつけの両親が来るんです…」

「…」

両親? それは俺に挨拶しろとこう神からの試練だというのか! ? だがしかし…『ピンポン! ! !』ええええ! ? 早くねえ! ? マジで! ?

「あ、お父さん、お母さん。いらっしゃい」

「あら 本当に女の子になっちゃったのね」

「父さんはうれしいぞ! ! 実は俺、娘が欲しかったんだ! ! 」な、何か言わねば。

「すいませーん。同室の紺野 透といいます。」

「透くんね。母です。よろしくね」

「父だ。よろしく」き、緊張する…!

「ちつと、いいかい? なんすか? ! !

「家の娘に変な事したら殺す」

「はい…」もうムリ。絶対ムリ。神は俺を見捨てたのだ…。

「お昼出来たよ~ 透さんも早く」

「ああ」

「本当、母さんの高校生時代にそつくりだ」

「えへへ」照れる。かわいい…。それに、今日のチャー・ハンはうまい

「そろそろ聞かせて貰つわよ透くん。そりをどひどひ語つてこむの?」

キター! !

「はい。好きです。愛しますだから、娘さんを下せ! ! ! 」言つた。言つたぞ俺

「いいよ」いいのぉ…?

「家の娘を嫁に貰ってくれ」

「え！？いいの？」

「そら。いい男をもつたわね。」いいんですか！？

「透さん…。ふつつか者ですが、私をお願いします。」言つたわ…。

これで二人は将来を約束されたのね。嬉しい

それから三時間後に両親は帰つていった。ちなみに、透の心臓のバクバクもなかなか納まらなかつたそうな。

幼なじみとバッタリー！（前書き）

お待たせしました。

幼なじみとバッタリ！！

今日は私、広井 空一人で外出しています。自分の趣味で秋葉原にいます。

僕は、男の子の頃からアニメが好きでよくマンガを買ってた。実は、透さんもこっちの人間なわけだが今日は用事があつて来てない。少し寂しいです…。

ああ、『魔法少女の麻衣ちゃん（作者が前に書いていたやつです）』です。かわいいですよねでも、麻衣ちゃんも男の子だつたんですよ。知つてました？（読んでた人しか通じねえよ…）はいとして同人誌探しと

アニメイト発見 人込みでなかなか向こうが見えないよお…。

「キヤツ」誰かにぶつかっちゃつた…。

「イテテテ。おいー！ 気をつけ… り？… あーー！」

「あーー！」「そ、空？」やばいー！ 今の僕は女の子…

「いえ… 違います」

「いや、広井 空だろ？」

「人違いですよ。ほら、私女ですし」

「いや、その声と顔は空だ… そうだな、そうだー！ お前は小学校六年の頃、同級生に告白されて、キスまでしてた。男同士で」

「いや… やめて。それは、違うの。」

「ま、しかし可愛くなっちゃって。」

「神様がきつと女の子してくれたんですね。」

「そうか。しかし久しぶりだなあ。三年ぶりか？」

「そうね。数馬くんもずいんぶんかつこよくなっちゃって…」。彼は、幼なじみの木凧きなぎ 数馬かずまくん。久しぶりだなあ。

「あのや。つ、付き合つてゐる奴いるの?」

「うそ。」

「やうか（何処のどいつだコリマ……ぬつ殺す……）」

こゝして一人の男の初恋が終わつた。そして今、この男の復讐劇が始まる……（はじまんねえよ……）。

(脚本透の親つて凄へむ？)

スイマナノ。テラ形态で。

透の親つて凄くね？

「ふんふん 今日のおかずはハンバーグ あら？」下半身に違和感がある。なんか、生暖かくて、ぬるぬるしてて血みたい。ん？血？まさか！－はい、下半身みたら血まみれでした。驚いたね。ああ私は完璧に女なのね。あの人の子供が生めるのね。

「あの」

「ん？」

「私、生理きたみたいです。」

「本当に？ よかつた。将来結婚しよう」

「はい」うれしい。結婚しようという台詞と私に生理がきたという事実を喜んでくれた。もう、何も欲張らないわ。

突然だが今日、我が両親がくる。

「透。来ちゃつた」出たよフリフリオーラでまくりな母『陽子』。外見年齢16歳。凄すぎるだろ。実は46だつたりする。

「久しぶりだね。透」出ました。外見年齢20歳の父『啓介』。実は46歳。なんじゃ、この人たち！－実の親です。はい。

「久しぶりにきたわー。空ちゃん久しぶり」

「はい。叔母様」

「叔母様だなんて 義母様でいいのよ」 じついう人なんだよ。まったく！－

「空ちゃん。私もできれば叔父様ではなく義父様とよんでもほしいの

だが？「クソ両親どもめー！」

「そういうえば女の子なつたんですね。これで問題無じだわ。もううやつたの？」

「……まだです」

「ちやつちやかとちやつちやいなさーーー」いや、ヒステリックになられても。

「透。やるときは付けなくていいからな」

「はあ」。一応俺、次期大企業の社長なんぞ金はしこたまアルンス

三。

その夜、私たちひやつました。えへ

作者より。

変態でスイマセン。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5409f/>

新婚203号室

2010年12月9日05時42分発行